

長野県植物誌改訂 文献資料 4:「信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設研究業績」に掲載された植物相・植生等に関する文献目録

大塚 孝一 *

信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設は、最初、昭和 9 年 (1954) に山小屋として発足し、羽田健三氏の尽力により昭和 29 年 (1974) に「志賀高原生物研究所」として設置された。その後自然観察路、ロックガーデン、資料館等が整備され、昭和 41 年 (1966) に志賀自然教育施設となった。研究業績は、第 1 号から 4 号まで「志賀高原生物研究所研究業績」、第 5 号から「志賀自然教育研究施設研究業績」として発行され、第 38 号からはタイトルが「信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設研究業績」となった。2020 年までに 57 号が発刊されている。研究業績のうち、長野県を対象とした植物相・植生等に関する文献を紹介する。

「信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設研究業績」

志賀高原生物研究所研究業績 第 1 号 -4 号 (1962-1966)

羽田健三・横内文人・堤 久・浅原 協 (1962) 志賀高原の高等植物フロラについて, 1: 7-37.

松田行雄 (1963) 志賀高原のミズゴケ I, 2: 15-24.

和田 清 (1965) 志賀高原の高等植物フロラ (補遺) (1), 3: 23-26.

和田 清 (1965) 志賀高原の植物相と植物群落 第 1 報, 植生概観, 3: 27-33.

和田 清・青木サト子・高橋庸子・寺西けさい・横山恭子・若林久江 (1966) 志賀山溶岩台地の森林植生—志賀高原の植物群落の構造と遷移 II, 4: 45-57.

志賀自然教育研究施設研究業績 第 5 号 -37 号 (1967-2000)

中山 例・北村智恵・若林文子・笠井恭子・宮下 稔・野沢進之輔 (1967) 志賀山植物群落の垂直分布と構造—志賀高原の植物群落の構造と遷移 III, 5: 21-37.

羽田健三・中山 例・芦沢とし江・関 節子・篠田忠彦・

若林久江・横山恭子 (1967) : 奥裾花峽におけるブナ林の研究—植物社会学的研究を中心として—, 5: 59-73.

中村武久 (1967) 志賀自然教育園内のシダ植物, 5: 85-90.

羽田健三・中山 例・平林国男 (1968) 黒姫山における植物社会学的研究, 6: 35-48.

羽田健三・中山 例・北村智恵 (1969) 亜高山帯針葉樹林下における倒木上の着生植物群落—志賀高原の植物群落の構造と遷移 IV, 7: 15-35.

羽田健三・中山 例・関 節子 (1969) 田の原湿原の植物群落—志賀高原の植物群落の構造と遷移 V, 7: 37-55.

羽田健三・伊藤静夫・小林規甫 (1972) 地獄谷周辺における植物社会学的研究, 10: 49-59.

羽田健三・平林国男・八幡泰平・小林圭介 (1973) 北アルプス乗鞍岳・風吹岳周辺の植生, 11: 41-64.

羽田健三・中山 例・堤 久・浅原 協 (1974) 摺古木山の植生—植物社会学的研究, 12: 1-16.

羽田健三・伊藤静夫・八幡泰平・横内文人・和田清 (1975) 乗鞍高原の植生, 13: 1-10.

渡辺隆一 (1978) 志賀高原の植物分布 I, モミ属 (Abies) の分布, 16: 1-4.

春原 弘・渡辺隆一 (1978) 志賀高原の植物分布 II, 岩菅山における特記すべき植物, 16: 31-32.

Watanabe Ryuichi (1980) Shoot growth of *Betula ermani* in Shiga Heights, 16: 33-36.

渡辺隆一・春原 弘 (1979) 志賀高原の植物分布 III, ヒメイチゲの分布, 17: 15-17.

Watanabe Ryuichi (1979) Seasonal division based on the phenological records, 17: 19-32. 植物季節に基づく季節の区分

Watanabe Ryuichi (1980) Phenology of woody plants in Shiga Heights, 18: 55-60. 志賀高原における木本植物の植物季節

渡辺隆一 (1981) 自然教育園内の植物の開花期, 19: 35-44.

和田 清 (1982) 本州中央部の内陸地域における夏緑広葉樹林の植物社会学的研究 (1), 20: 1-39.

Watanabe Ryuichi (1982) Phenology of Pruns

* 大塚孝一 〒 380-0952 長野県長野市宮沖 199-1

- nipponica in Shiga Heights -Structure of phenological appearance, 20:41-47. タカネザクラ *Prunus nipponica* の植物季節 - 植物季節現象の構造について -
- 渡辺隆一 (1984) カヤノ平ブナ原生林の研究 I , カヤノ平学術参考林の毎木調査, 21: 7-17.
- 渡辺隆一・中静 透・本間 暁・原 正利・依田修二 (1985) カヤノ平ブナ原生林の研究 II , 1982 年台風 10 号による風倒, 22: 15-18.
- 岩田好宏 (1985) 志賀自然教育園内の樹木 3 種 (ヒメウスノキ, コシアブラ, クロヅル) の生育様式について, 22: 19-28.
- 渡辺隆一・赤羽貞幸・別府 桂・春日基文 (1986) 信州大学カヤノ平ブナ原生林教育園ブナ林の構造 - 附, 信州大学カヤノ平ブナ原生林教育園内の毎木資料及び毎木位置図, 23: 21-32.
- 渡辺隆一 (1986) 信州大学カヤノ平ブナ原生林教育園内の高等植物, 23: 33-35.
- 渡辺隆一 (1986) 信州大学カヤノ平ブナ原生林教育園内の低木類の樹令, 23: 37-40.
- 渡辺隆一 (1987) タカネザクラにおける開花期と結実率の関係の一例, 24: 55-56.
- 渡辺隆一 (1988) 標高の差による木本植物季節の変化, 25: 1-14.
- 渡辺隆一 (1989) カヤノ平ブナ原生林の研究 III, 1979-1988 年の期間における林木の死亡, 26: 7-14.
- 堀口健雄・北原瑞木・田中享知 (1990) 志賀高原長池の藻類相, 27: 1-7.
- 堀口健雄・梶田学・谷口一登・前島奈美・久保文靖・鈴木昭 (1991) 長野市鐘つき堂池の藻類相, 28: 13-19.
- 渡辺隆一 (1991) カヤノ平ブナ原生林の研究 IV , 1979-1988 年の期間における林木の成長, 28: 21-28.
- 和田 清 (1991) 本州中部内陸地域の植物相と植生 I , 長野県内のケヤキの巨樹・巨木, 28: 29-32.
- 堀口健雄・矢崎智・中村美保・祢津到・宮澤恭一・渡辺哲弘 (1992) 長野市大池の藻類相, 29: 11-17.
- 和田 清 (1992) 本州中部内陸地域の植物相と植生 II, 長野盆地周辺におけるヤマコウバシ *Lindera glauca* の分布, 29: 19-23.
- 渡辺隆一 (1993) 信州大学カヤノ平ブナ原生林教育園ブナ林の構造 2 - 1982-1992 年の期間における林木の成長一, 30: 33-41.
- 和田清 (1993) 長野県北東部の鳥甲山の植生, 30: 43-49. (英文)
- 渡辺隆一 (1994) カヤノ平ブナ原生林の研究 5 原生林と二次林の動態, 31: 9-16.
- 和田清・松原美晴・後沢宏文・酒巻裕三・加藤久幸 (1994) 志賀高原・一ノ瀬湿原の高等植物目録, 31: 17-20.
- 和田清 (1994) 長野県西部の南木曽岳の植生, 31: 21-26. (英文)
- 渡辺隆一 (1995) 長池湿原の植生の現状と変化, 32: 9-18.
- 和田清 (1995) 長野県中央部の生坂山地の植生, 32: 19-24. (英文)
- 渡辺隆一 (1996) ダケカンバの植物季節における個体変異と年変異 - 自動カメラの連日写真による開葉日と黄葉日の判定から -, 33: 15-26.
- 和田清 (1996) 長野県北部のハンノキ林, 33: 27-33.
- 黒岩和男・渡辺隆一 (1997) 志賀高原おたの申す平における亜高山針葉樹林の森林構造, 34: 11-22.
- 和田清 (1997) ミチノクフクジュソウの新産地, 34: 23-24.
- 小山桂子・小林詢 (2000) 放置されたスキー場における植生変化, 37: 1-22.
- 信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設研究業績 第 38 号 - 57 号 (2001-2020)
- 渡辺隆一・井田秀行 (2001) カヤノ平ブナ原生林の研究 IV 20 年間 (1980-2000) の動態, 38: 5-8.
- 小山泰弘・小山桂子 (2002) 放置されたスキー場における 20 年間の植生変化, 39: 1-6.
- 井田秀行・湯本茂・湯本静江 (2003) 北志賀高原三ヶ月池アワラ湿原の植生と植物相, 40: 15-27.
- 小山泰弘・岡田充弘 (2004) 長野県栄村のブナ林におけるクワカミキリの被害実態, 41: 1-5.
- 大塚孝一 (2004) 長野県飯綱高原におけるヒメザゼンソウの展葉および開花パターン, 41: 7-11.
- 井田秀行 (2005) 長野市近郊の里山においてマツ枯れがコナラ・アカマツ二次林の群落構造に及ぼす影響, 42: 1-5.
- 佐藤孝幸・渡辺隆一 (2005) 長野県北部におけるシラカンバ *Betula platyphylla* var. *japonica* の肥大生長, 42: 7-11.

- 佐藤利幸・宋立軍（2006）信州山間地におけるシダ植物の種密度分布と出現頻度－オシダ属の広がりとは賀高原からのスケーリング解析－, 43: 1-12.
- 渡辺隆一・大久保明紀子・井田秀行（2006）志賀高原における温暖化の植物季節への影響－1986-2004年の定点写真からのダケカンバの開葉日・黄葉日の年変動－, 43: 13-16.
- 大塚孝一（2007）ザゼンソウ及びナベクラザゼンソウの展葉と開花パターン, 44: 7-10.
- 井田秀行・後藤彩・青木舞・白田武司（2007）豪雪地帯におけるブナ林の森林構造－長野県飯山市鍋倉山の事例－, 44: 11-18.
- 池谷友希子・井田秀行（2008）長野県小谷村に残る伝統的茅場の植物相, 45: 1-6.
- 池田圭吾・高橋耕一・井田秀行（2008）志賀高原における亜高山帯針葉樹林の更新動態の長期モニタリング（予報）, 45: 7-8.
- 池谷友希子・井田秀行（2008）信州大学志賀自然教育園ロックガーデンの植物目録, 45: 9-16.
- 後藤彩・井田秀行（2010）国指定天然記念物「湯の丸レンゲツツジ群落」のモニタリングの概要, 47: 1-4.
- 井浦和子・井田秀行（2010）国指定天然記念物「黒岩山」の植物相, 47: 5-14.
- 井田秀行（2010）志賀高原高天ヶ原湿原のモニタリングの概要, 47: 15-17.
- 安田哲・島野光司（2011）平成18年長野県7月豪雨により岡谷諏訪地域で発生した土石流発生地の植生的特徴, 48: 1-7.
- 島野光司・谷垣晃司（2011）長野県小海町・山の神サラサドウダン群落の植生的特徴と今後の保全について, 48: 15-27.
- 渡辺絵・井田秀行（2012）カヤノ平ブナ原生林の研究 7. 30年間（1980-2010）の動態（速報）, 49: 6-9.
- 渡辺隆一（2013）カヤノ平ブナ原生林の研究 8. 1982年の台風倒木の樹幹の解析, 50: 29-31.
- 井田秀行（2013）カヤノ平コアサイトにおける多雪地ブナ林の森林構造「モニタリング1000」, 50: 33-40.（英文）
- 小山泰弘・仙石鐵也・井田秀行・岡田充弘（2014）松本市牛伏寺に残る小面積ブナ林の林分構造, 51: 1-5.
- 小林嶺太・畑 哲大・丸山知裕・堀田朋勢・牧 玲佳・島野光司（2014）梓川周辺に生育するケショウヤナギ, コゴメヤナギ, ハリエンジュの年輪解析, 51: 7-12.
- 小谷一央・尾関雅章・井田秀行（2014）長野県小谷村の伝統的カヤ場に自生するススキ属, 51: 13-14.
- 金子芽衣・松田貴子・井浦和子・桜井智子・中村千賀・井田秀行（2015）長野県黒姫山麓の高原盆地に成立する平地林の植物相, 52: 1-10.
- 井田秀行（2015）「モニタリング1000」志賀高原おたの申す平コアサイトにおける亜高山帯針葉樹林の毎木調査データ, 52: 11-14.（英文）
- 井田秀行（2015）新産地報告：長野県小谷村の伝統的カヤ場に生育するオオナンバンギセル *Aegnetia sinensis* G.Beck, 52: 15-16.
- 堀井日香里・島野光司・佐藤利幸（2015）長野県松本市におけるシラホシムグラ *Galium aparine* L. の侵入, 52: 17-18.
- 井田秀行（2017）長野県飯山市小菅地区に残るブナ林の林分構造, 54: 7-13.